

令和2年度 田原小学校 「学校関係者評価書」

【評価】4:たいへんよい 3:よい 2:もう少し 1:改善の必要がある

重点目標	評価項目	方策・手立て	数値目標の基準	自己評価		成果と課題及び改善策	学校関係者評価委員会評価		
							意見等	評価	
1 確かな学力の定着	① 職員一人一人が授業改善に努め、各種テスト及び学力調査等において、8割(各種テスト)を上回ることを目指す。 ② 読み聞かせや読書活動を通して読書習慣の確立を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 朝のスキルアップタイム(国語・算数)を実施する。 授業の中で個に応じた指導を行い、定着や習熟の時間を確保する。 学力調査等を分析し、個に応じた指導を図る。 授業でICTを積極的に活用する。 	国語・算数の単元テストの集計結果(平均点)が 4・・・9割以上 3・・・8割以上 2・・・7割以上 1・・・7割未満	3	3.3	<ul style="list-style-type: none"> 単元テストは、10月時点では、国語の平均87.2点、算数の平均88点であったが、1月の時点では、国語の平均88点、算数の平均87.1点で微増、微減であった。昨年度と比較しても大きな変化はない。今後、学年末に向け、学習してきたことを振り返り、基本的な学習内容の確実な定着のための個別指導の充実と本校の研究主題でもある「主体的な学び」「対話的な学び」の実現に向けた取組を推進していきたい。 昨年度の1・2学期の貸出冊数は総計1216冊であったが、本年度の1・2学期の貸出冊数は4125冊と3.39倍の大幅増となった。これは、担当職員が児童の図書室利用を増やすために委員会を中心に様々な取組を工夫した結果であると推察される。それらが家庭での読書にもつながるような取組の工夫にもつなげていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元テストにより学習内容の定着を図ることはたいへんよいと思う。微増・微減となったのは、各子供のやる気次第の部分によるのかもしれない。少人数の学習なので、その特性をいかして一人一人のスキルアップにつながってほしい。 単元テストの結果、微減もあるが、学校も児童も頑張っていると思う。高い評価にしたい。 生徒が意欲的に授業に取り組める環境が整っていると思う。 図書の貸出増加はたいへんよいと思う。先生方の努力によると思うので、これが子供たちの国語力につながっていくと思う。 コロナで外出ができず本を読む楽しさが生まれる。 	3.3	
		授業でのICTの活用頻度が 4・・・ほぼ毎日 3・・・週に3日程度 2・・・月に3日程度 1・・・月に1日以下	各学期における貸出冊数が昨年度と比較して 4・・・増加率1割以上 3・・・増加率1割未満 2・・・減少率1割未満 1・・・減少率1割以上						4
2 豊かな人間性の育成	① 道徳教育及び人権教育を充実させ、勤労意欲・奉仕の精神の醸成を図る。 ② 基本的生活習慣における行動様式(あいさつ)の定着率8割以上を目指す。 ③ メディアコントロール推進率の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 人権と道徳に関する参観授業を実施する。 朝のボランティアや様々な行事等において勤労意欲や奉仕の精神を育む指導を行う。 普段のあいさつ指導を徹底し、小中によるあいさつ運動に取り組む。 家庭教育学級と連携を図りながら、学校・学級からメディアコントロールに関する家庭への働きかけ(情報提供)を行う。 	通知表の「勤労・奉仕」の評価が 4・・・〇評価以上が10割 3・・・〇評価以上が9割以上 2・・・〇評価以上が8割以上 1・・・〇評価が8割未満	4	3	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活において、普段から何事においても自ら進んで係の仕事を行ったり、手伝いをしたりする様子が数多く見られる。また、朝のボランティア活動も率先して行う児童が多い。低学年もそれらの児童の様子を見ながら、朝のボランティア活動のお手伝いをするなど奉仕の気持ちを育てている。 学校ではほとんどの児童がしっかりとあいさつができて、「田原っこがんばりカード」の評価でも95%の児童が「できている」という評価であった。また、学校外でも「あいさつがよい」という声が聞かれるようになった。今後も学校だけでなく、どこでもあいさつができるよう地域・保護者と連携を図りながら取組を推進していきたい。 メディアコントロールの達成率は77.2%で前回の調査よりも4.7%程下がっている。これまで力を入れて取り組んできて、年々達成率も向上していたので、残念な数字だ。今後はこれまでの取組を見直し、個別の指導を図りながら、家庭と連携した取組を行っていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア精神を育むことが家庭での手伝い等に影響しているの、よい傾向だと思う。また、あいさつについても身に付いてきたのでこれからもこの取組を続けてほしい。 学校、家庭での生活で他人への思いやりの心が育っていると思う。自己中心の子供たちが減少しているのはよい。 コロナでお休みの期間、家でも農家の手伝いをしているところを見た。仕事の大変さもわかりよかったのではないだろうか。 家庭での子供たちの状況はよくわからないが、親がお手本となるべきだと思う。 メディアコントロールについては、たいへん、難しい問題と思う。コロナによる休校の影響もあり、コントロールできてないのかもしれない。今後も力を入れて取り組む課題だと思う。 コロナ禍の影響で家で過ごす時間が増えた分、メディアに接する時間も増える。先の見通しがたたないため、メディアコントロールについては、新たな取組が必要だと思う。 	3.5	
		「田原っ子ががんばりカード」の「あいさつ」の自己評価が、 4・・・〇評価が9割以上 3・・・〇評価が8割以上 2・・・〇評価が7割以上 1・・・〇評価が7割未満	3						
		「田原っ子ががんばりカード」の「ノーメディア」の取組評価が、 4・・・〇評価が10割 3・・・〇評価が8割以上 2・・・〇評価が5割以上 1・・・〇評価が5割未満							2
健やかな体の育成	① 「体力向上プラン」個人到達率8割以上を目指す。 ② 虫歯治療率100%を目指す。 ③ 安全点検を毎月実施し、事故0を目指す。 ④ 食習慣の向上を図り、残食0を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 教科体育の指導を充実させるとともに教科外体育においても工夫した指導を行う。 	体力テストAとBの児童の割合が 4・・・到達率5割以上 3・・・到達率4割以上 2・・・到達率3割以上 1・・・到達率3割未満	4	3	<ul style="list-style-type: none"> 体力テストA判定の児童は22%、B判定の児童は44%、合計66%で。昨年度よりも高くなっているが、A判定の児童の割合が低くなっている。今後も体育の授業や「体グングンタイム」等を通して、計画的に体力づくりに取り組んでいきたい。 むし歯治療率は、60%で、未治療児童は残り2名である。「ほけんだより」による啓発や各家庭への声掛けを行っていききたい。 スポーツ振興センターに係るケガが、2件であった。あらゆる場面で、児童の安全に対する意識の向上を図っていききたい。 年度の前半は残食が多かったが、だんだん少なくなっており、現在はほとんど残食が見られない。今後、さらに、食の大切さについて児童に啓発を行っていきながら、残食0を目指していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 遊びやスポ少で体力はついてきていると思うが、今年はコロナにより、休校やスポ少の活動の停止があり、A判定減となったと思うので、しょうがないかなと思う。 世の中が便利になり、大人も子供も運動量が減少しているので体力低下になっている。歩いているの登校が見られない。 休みの日、外で走ったり、ボール遊びをしたりする子供たちを見かけなくなった。 むし歯治療については親の責任だと思う。 子供のケガは元気のある証拠でもあるので、ある程度はしょうがないと思う。 親の責任、予測力、判断力等々育てないといけないと思う。 食の大切さや体づくりのため、残食0になるようこれまで同様に取り組んでほしい。 	3	
		<ul style="list-style-type: none"> 健康や安全について望ましい態度や習慣を育む指導を行う。 	虫歯の治療率が、 4・・・治療済みが10割 3・・・治療済みが8割以上 2・・・治療済みが5割以上 1・・・治療済みが5割未満						2
		<ul style="list-style-type: none"> 学校内外における健康安全指導を行う。 	スポーツ振興センターに係るケガや事故の件数が 4・・・ケガや事故が0件 3・・・ケガや事故が5件以内 2・・・ケガや事故が10件以内 1・・・10件以上						
		<ul style="list-style-type: none"> 食に関する日常指導を行うとともに弁当の日を実施する。 	残食ゼロの給食日数の割合が 4・・・残食ゼロ日が9割以上 3・・・残食ゼロ日が7割以上 2・・・残食ゼロ日が5割以上 1・・・残食ゼロ日が5割未満						3

4 家庭・地域との連携	① 小中連携及び幼保小連携におけるスムーズな接続を目指す。	小中連携や幼保小連携における研修会・行事を実施し、連携内容の共通理解を図る。	小中連携(合同運動会・研修)と幼保小連携(推進会議や行事等)が中ギャンプ、小1プロブレムに効果を示していると答えた職員の割合が 4・・・10割 2・・・8割以上	3・・・9割以上 1・・・8割未満	4	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 田原小・中学校合同の研修会を6回実施した。また、保育園での保育体験研修や相互参観、地域社会体験研修等を計画したが、感染症対策により、実施できないものもあった。次年度はこれらを計画通り実施し、連携を充実させることで、よりよい児童の指導や支援に生かしていきたい。 ○ 宿題等については、ほとんどの児童が取り組んでいる。その内容について今後、充実させていくために、教師だけではなく、保護者による学習の点検や見届け、学習環境を整えることの大切さを引き続き啓発していきたい。 ○ 本年度は感染症対策により地域人材を活用しての学習が十分にできなかった。その中でも、学校全体では保護者による「ようこそ先輩」の実施等、保護者・地域の方の協力を得て、教育活動を充実させることができた。今後は本年度見直したふるさと学習の計画に基づいて、地域人材や素材を再度整理し、地域との連携を図りながら効果的な地域人材や素材の活用を図っていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 田原中が閉校になるため、小中の連携が難しくなってくるかもしれないが、引き続き取り組んでもらいたい。 ○ 宿題については、個人的に見届けが充分にできていないかと反省している。 ○ 地域人材等の活用はコロナにより今年はしょうがないのかと思う。次年度以降どうなるかわからないが、引き続き活用してもらいたい。 	3
	② 家庭との連携を深め、家庭学習の充実を図る。	「家庭学習の四か条」実施について家庭への啓発を図る。	毎日の家庭学習ノート(宅習ノート)の提出率が 4・・・9.5割以上 2・・・8割以上	3・・・9割以上 1・・・8割未満	4				
	③ 地域素材の教材化と地域人材の積極的な活用を図る。	地域人材や素材の活用推進を図る。	地域人材や素材を活用した学習を年間2回以上実施した学級が 4・・・全学級 2・・・4学級	3・・・5学級 1・・・4学級未満	1				
5 教職員の資質の向上	① コンプライアンスを意識した日常指導を図る。	コンプライアンス研修を実施し、必要に応じコンプライアンスに関する資料を提示することで、意識の向上を図る。	コンプライアンスチェックシート全項目に3以上の評価をつけた職員の割合が 4・・・10割 2・・・8割以上	3・・・9割以上 1・・・8割未満	4	3.3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教職員のコンプライアンス意識向上のために定期的にコンプライアンス研修を工夫しながら取り組んでいる。また、職員のコンプライアンスに関する達成状況もよい。今後もコンプライアンス意識の向上に努めていくとともに、安心安全な学校づくりに努めていきたい。 ○ 本年度は授業でのICTの活用の仕方やプログラミング教育の実践などにとどまらず、リモート授業の行い方などこれからの学習指導に生かすことのできる研修等を実施できた。 ○ 本年度は、主題研究における研究授業等を行ったり、事後研究会で今後の授業を再構築したりするなどの取組を行ったが、それが授業力向上に結びついていないと答えた職員が2名いた。これらのことから主題研や研究授業の在り方を見直すとともに職員の授業づくりに対する意識の向上を図る取組を推進していかなければならない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 田原小の先生方はたいへんすばらしいと思うので、今の状況でよいと思う。ICTの活用など新たな指導方法など出てきてほしいと思うが、子供たちのためにがんばってもらいたい。また、校長、教頭を中心に先生方のスキルが上げれば、子供たちにも反映されると思う。 ○ 教職員の意識向上のため研修を続けてほしい。 	3.8
	② 新学習指導要領における指導への理解を図る。	各教科等における研修を実施し、新学習指導要領に基づいた指導方法等への理解を図る。	各教科、特別の教科道徳、特別活動の研修で学んだことを授業等で活用した職員の割合が 4・・・10割 2・・・6割以上	3・・・8割以上 1・・・6割未満	4				
	③ 各教科等において、 <u>主題研究やOJT、研究授業等を通して、授業力の向上を図る。</u>	<u>日々の授業における校長・教頭による指導や研究授業等での意見交換を行うことで、授業力の向上を図る。</u>	<u>主題研究、OJT、授業研究等により、授業力が向上したと</u> <u>感じている授業者の割合が</u> 4・・・10割 2・・・6割以上	3・・・8割以上 1・・・6割未満	2				

総評

- 確かな学力の向上については、取組を継続し、更なる学力向上につなげていく。また、家庭と連携を図りながら、家庭での学習の見届けに対する啓発を図っていく。
- メディアコントロールについては、取組内容を焦点化し、学年の発達段階に応じた取組を行うことで、現状を打開していく。
- 田原中学校が高千穂中学校に統合されることから高千穂中学校との連携の在り方を模索していく必要がある。
- これまで以上に家庭や地域との連携を密にし、児童のよりよい成長のための情報交換を行っていく必要がある。